

公立学校共済組合近畿中央病院 公的医療機関等2025プラン

平成30年1月 策定
改正 平成31年3月

【近畿中央病院の基本情報】

医療機関名：公立学校共済組合 近畿中央病院

開設主体：公立学校共済組合

所在地：兵庫県伊丹市車塚3丁目1番地

許可病床数：445床

(病床の種別) 一般病床 445床

(病床機能別) 高度急性期 4床
急性期 441床

稼働病床数：398床

(病床の種別) 一般病床 398床

(病床機能別) 高度急性期 4床
急性期 394床

診療科目：内科、精神科、循環器内科、神経内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科

職員数：医師 100.6人

看護職員 327.3人

専門職 121.2人

事務職員 50.1人

※2017年11月／育休等除く

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状（平成28年10月兵庫県地域医療構想より）

ア 地域の人口及び高齢化並びに医療需要の推移

- ・団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年頃まで高齢者人口が一貫して増加する見込み。
- ・うち、後期高齢者人口は2030年に概ねピークに達するが、増加率が高く、2015年の1.4～1.5倍に膨らんだ後横ばいとなり、団塊ジュニア世代が後期高齢者となる2045～2050年にかけて再び増加に転じる見込み。
- ・これと連動して医療需要は大きく膨らみ、2030年頃にピークに達した後も暫く高水準を維持する見込み。



イ 地域の医療需給の特徴

- ・病床機能別では、急性期、慢性期が過剰である一方、回復期が不足、高度急性期も大きく不足している。
- ・圏域内完結率71.8%と県内で最も低く、隣接する阪神南圏域や神戸市、大阪府への流出が多い。
- ・高度急性期医療を提供する救急救命センターが無く、救急医療の圏内充足率が89.7%と低い。

地 所 場	医療機関所在地										他県		
	住民										大阪府	大蔵	兵庫
	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	大阪	大蔵	兵庫
自 由 者 者 所 所 場	神戸	1,262.8	37.4	*	65.5	*	*	*	*	*	*	13.8	*
自 由 者 者 所 所 場	阪神南	53.7	541.5	37.6	*	*	*	*	*	*	*	15.5	24.4
自 由 者 者 所 所 場	阪神北	33.0	85.5	256.6	*	*	*	*	*	*	*	23.8	28.8
東播磨	72.4	*	*	380.4	*	17.2	*	*	*	*	*	*	*
北播磨	32.5	*	*	23.4	128.3	*	*	*	*	*	*	*	0.0
中播磨	21.7	*	*	15.3	*	339.3	*	*	*	*	*	*	*
西播磨	*	*	*	*	*	83.4	58.1	*	0.0	*	*	*	*
但馬	10.8	*	*	*	*	*	*	90.3	*	*	*	*	12.3
丹波	12.7	*	*	*	10.8	*	*	*	32.2	*	*	*	0.0
淡路	14.3	*	*	*	*	*	*	*	0.0	89.2	*	*	*
總 額	*	11.8	21.0	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
自 由 者 者 所 所 場	大阪	11.3	24.1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

急性期 2013年 (人／日)		医療機関所在地										担当						
		神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	(京都) 中丹	(大阪) 三島	(大阪) 三島	(大阪) 大阪市	(鳥取) 鳥取	(兵庫) 兵庫東部	(福岡) 福岡
西	神戸	3,252.5	34.8	20.3	145.2	30.8	*	*	*	*	*	*	12.9	28.2	*	*	*	*
西	阪神南	105.0	1,772.4	113.4	*	*	*	*	*	*	*	*	21.2	50.9	*	*	*	*
西	阪神北	94.0	1,722.2	945.7	*	*	*	*	*	*	*	*	14.0	30.4	*	*	*	*
東	東播磨	345.3	10.2	*	1,181.8	*	28.8	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
東	北播磨	21.8	*	*	38.2	52.2	15.7	*	*	*	*	*	*	*	*	0.0	*	*
東	中播磨	23.4	*	*	31.2	20.0	1,051.2	24.6	*	*	*	*	0.0	*	*	*	*	*
東	西播磨	19.1	*	*	*	*	135.3	441.0	*	0.0	*	*	*	*	*	11.5	*	*
東	但馬	12.5	*	*	*	*	17.2	*	315.1	*	*	*	*	*	*	34.0	*	0.0
東	丹波	19.8	11.1	20.2	*	47.2	*	*	*	175.7	*	15.4	*	*	0.0	*	*	*
東	淡路	24.5	*	*	11.2	*	*	*	*	0.0	236.7	0.0	*	*	*	*	14.4	*
南	(京都) 丹波	*	*	*	*	*	*	*	*	15.7	*	0.0	*	*	*	*	*	*
南	(大阪) 鳥取	4	28.1	83.0	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
南	(大阪) 大阪市	22.2	18.1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
南	(兵庫) 兵庫東部	*	*	*	*	*	*	12.2	*	0.0	*	*	*	*	*	*	*	*

回復期 2013年 (人／日)		医療機関所在地										担当						
		神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	(京都) 中丹	(大阪) 三島	(大阪) 三島	(大阪) 大阪市	(鳥取) 鳥取	(兵庫) 兵庫東部	(福岡) 福岡
西	神戸	2,905.0	80.0	23.4	137.8	82.1	10.8	*	*	*	*	*	11.5	4	28.4	*	*	*
西	阪神南	25.8	1,815.0	111.0	*	*	*	*	*	*	*	*	40.3	*	12.0	63.0	*	*
西	阪神北	50.2	1,707.1	573.2	*	*	*	*	*	*	*	*	14.1	12.0	63.0	*	*	*
東	東播磨	164.5	*	*	1,122.6	12.3	10.1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
東	北播磨	63.5	*	*	19.3	503.6	14.2	*	*	*	*	*	*	*	*	0.0	*	*
東	中播磨	23.1	*	*	28.2	13.7	1,103.1	88.0	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
東	西播磨	*	*	*	*	*	*	176.6	373.0	*	0.0	6.0	*	*	*	*	*	*
東	但馬	10.4	*	*	*	*	*	14.3	*	328.7	*	*	*	*	*	32.4	0.0	*
東	丹波	14.1	*	18.5	*	43.2	*	*	*	114.0	*	19.4	*	*	*	0.0	*	*
東	淡路	21.4	*	*	*	*	*	*	*	*	8.0	257.2	0.0	*	*	*	15.7	*
南	(大阪) 鳥取	*	32.9	86.0	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
南	(大阪) 大阪市	20.0	44.9	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
南	(兵庫) 兵庫東部	*	*	*	*	*	*	*	12.0	0.0	0.0	*	*	*	*	*	*	*

慢性期(特例) 2013年 (人／日)		医療機関所在地										担当						
		神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	(大阪) 三島	(大阪) 三島	(大阪) 大阪市	(鳥取) 鳥取	(兵庫) 兵庫東部	(福岡) 福岡	
西	神戸	2,098.1	38.9	185.8	165.1	213.3	*	*	*	*	*	27.5	11.0	*	13.1	20.6	*	*
西	阪神南	128.4	1,528.9	206.8	*	18.1	*	*	*	*	*	87.4	12.7	18.9	25.6	3.0	10.5	*
西	阪神北	79.5	295.1	1,285.5	*	43.6	*	*	*	*	*	12.5	13.9	*	15.4	9.0	0.0	*
東	東播磨	54.0	11.2	24.8	1,103.0	87.0	31.8	*	*	*	*	10.2	*	*	*	0.0	*	*
東	北播磨	31.1	11.2	26.7	158.6	162.6	28.2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	0.0	*
東	中播磨	*	*	*	21.2	44.1	13.1	732.2	48.6	0.0	*	*	*	*	*	*	3.0	*
東	西播磨	*	*	*	*	*	*	82.0	458.3	*	*	0.0	*	*	*	*	3.0	*
東	但馬	*	*	*	25.7	*	33.6	*	*	182.4	50.8	*	*	*	*	*	24.7	0.0
東	丹波	*	*	76.9	*	21.1	0.0	0.0	*	293.3	*	*	*	*	*	*	3.0	0.0
東	淡路	10.3	*	*	*	*	*	0.0	0.0	0.0	719.5	0.0	*	*	*	*	3.0	10.8
南	(京都) 丹波	*	*	*	21.7	0.0	*	0.0	0.0	*	*	0.0	*	*	*	*	*	*
南	(京都) 中丹	*	*	*	56.7	*	*	*	80.0	*	43.7	0.0	*	*	*	*	*	*
南	(大阪) 鳥取	11.4	36.2	278.4	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
南	(大阪) 大阪市	13.5	48.8	16.9	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

② 構想区域の課題（平成28年10月兵庫県地域医療構想より）

ア 高度急性期医療、回復期医療の不足（急性期、慢性期医療の過剰）

- ・高度急性期病床、回復期病床が特に不足していることから、医療需要に応じた提供体制の見直しや充足が必要である。（ただし、医療需要のピークは2035年以降になることから、地域医療構想の推進については、2025年年の推計のみならず、その後の推移も視野に入れて行う必要がある。）
- ・慢性期病床では、急性期病院から医療依存度が高いままの転院も増加。また、在宅医療の後方支援としての役割や、当圏域には県内唯一の筋ジストロフィー病棟（病床）もあり、様々な医療ニーズがある。各機能と一体的に進める必要があるため、一律に削減、転換するのは困難な状況である。

地域	病床機能	2014(H26)年度 病床機能報告 (稼働病床)	2025(H37)年	差引	2030年	2035年	2040年
			医療需求 (人/日)		必要病床数 (床)	必要病床数 (床)	必要病床数 (床)
阪神北	高度急性期	25	373	497	△ 472	519	521
	急性期	3,461	1,474	1,890	1,571	2,010	2,028
	回復期	391	1,546	1,718	△ 1,327	1,845	1,880
	慢性期	2,815	2,268	2,465	-350	2,636	2,682
	病床数小計	6,692	5,661	6,570	122	7,010	7,091

イ 公立・公的病院等のあり方（がん対策、感染症対策含む）

- ・当圏域内の5つの公立・公的病院は、同規模で救急医療、がん対策、地域医療の中核的役割を果たしてきている。今後は医療需要の変化を踏まえ、圏域での病床バランス、不足する医療機能への対応と連携、高度・専門医療の提供を行う基幹病院間の機能を強化する必要がある。また各病院とも、開設後20年以上経過し、建物の老朽化等に伴う建替え、改築計画の時期を迎えている。
- ・今後も患者数が増加するのは、がんと循環器系疾患（脳血管障害、心疾患）、精神疾患（認知症を含む）である。特に当圏域では、全疾病の半数以上を占めるがん治療については、肺がん、大腸がん、胃がん治療が圏域内充足率84%を超えており、肝がん（54%）、乳がん（65%）の圏域内充足率が低い状況である。

ウ 他府県・他圏域との医療機能連携と患者の流入入

- ・当圏域では、圏域内完結率71.8%と県内で最も低く、隣接する阪神南圏域や神戸市、大阪府への流出が多い状況にある。住民にとって身近な場所で受けたい医療が受療できるよう、不足する医療機能の充足や医療機関の連携強化を図る必要がある。
- ・当圏域には、高度医療を提供する救急救命センターが無く、高度急性期医療の充実を図るとともに、広域での三次医療機能のあり方と連携体制の構築が必要である。また、救急医療の圏域内充足率が89.7%と低いものの、二次救急医療では平成27年から阪神地域6市1町で本格運用を開始している阪神医療福祉情報ネットワーク「h-Anshinむこねっと」二次救急システムの導入効果が認められており、今後も近隣の阪神南圏域や神戸、大阪との連携を図るとともに、当圏域内の救急医療体制を強化していく必要がある。
- ・川西市、三田市は、当圏域外の生活圏域である市町との患者の流入入が大きく、従前から救急医療等による医療連携がされている。（川西市は大阪、三田市は神戸市、丹波市等との医療連携）

项目		各期营业收入构成(万元)										各期营业成本构成(万元)					
		2012-01-01	2012-06-30	2012-12-31	2013-03-31	2013-06-30	2013-09-30	2013-12-31	2014-03-31	2014-06-30	2014-09-30	2015-03-31	2015-06-30	2015-09-30	2015-12-31		
年份	类别	金额	占比	金额	占比	金额	占比	金额	占比	金额	占比	金额	占比	金额	占比	金额	
2012-01-01	营业收入	18.8	10%	9.6	13%	1.8	1%	0.5	3%	1.5	1%	0.9	0.6	1.8	1%	0.6	0.3
2012-06-30	营业收入	1.9	32%	1.5	33%	1.8	33%	0.8	18%	1.5	18%	0.9	0.6	1.6	48%	0.6	0.6
2012-12-31	营业收入	1.2	33%	0.5	71%	1.5	50%	0.6	33%	1.5	50%	0.9	0.6	1.5	50%	0.6	0.6
2013-03-31	营业收入	1.1	0%	0.9	100%	1.8	100%	0.8	0%	1.5	100%	1.2	0.6	1.5	100%	0.6	0.6
2013-06-30	营业收入	1.2	0%	1.5	100%	1.8	100%	1.2	0%	1.5	100%	0.9	0.6	1.5	100%	0.6	0.6
2013-09-30	营业收入	1.4	0%	1.8	100%	1.8	100%	1.4	0%	1.5	100%	0.9	0.6	1.5	100%	0.6	0.6
2013-12-31	营业收入	1.2	0%	1.5	100%	1.8	100%	1.2	0%	1.5	100%	0.9	0.6	1.5	100%	0.6	0.6
2014-03-31	营业收入	1.4	0%	1.8	100%	1.8	100%	1.4	0%	1.5	100%	0.9	0.6	1.5	100%	0.6	0.6
2014-06-30	营业收入	1.2	0%	1.5	100%	1.8	100%	1.2	0%	1.5	100%	0.9	0.6	1.5	100%	0.6	0.6
2014-09-30	营业收入	1.4	0%	1.8	100%	1.8	100%	1.4	0%	1.5	100%	0.9	0.6	1.5	100%	0.6	0.6
2014-12-31	营业收入	1.2	0%	1.5	100%	1.8	100%	1.2	0%	1.5	100%	0.9	0.6	1.5	100%	0.6	0.6
2015-03-31	营业收入	1.4	0%	1.8	100%	1.8	100%	1.4	0%	1.5	100%	0.9	0.6	1.5	100%	0.6	0.6
2015-06-30	营业收入	1.2	0%	1.5	100%	1.8	100%	1.2	0%	1.5	100%	0.9	0.6	1.5	100%	0.6	0.6
2015-09-30	营业收入	1.4	0%	1.8	100%	1.8	100%	1.4	0%	1.5	100%	0.9	0.6	1.5	100%	0.6	0.6
2015-12-31	营业收入	1.2	0%	1.5	100%	1.8	100%	1.2	0%	1.5	100%	0.9	0.6	1.5	100%	0.6	0.6

『兵庫県医療審議会 保健医療計画部会（平成27年8月21日開催）資料』より

③ 自施設の現状

ア 基本理念

職域と地域に応える信頼の医療

1 基本方針

1. 時代の要請を的確に把握し、職域及び地域のニーズに応えるべく努めます。
 2. 急性期医療を担う中核的病院として、外部組織との医療連携を能動的に推進します。
 3. 快適な療養環境のもとで、優れた医療を効率よく提供します。
 4. 患者の個性、人権、権利を尊重し、一人ひとりのニーズにきめ細やかに応える医療を追求します。
 5. 職員の教育と人材育成に努め、研究を推奨します。
 6. 病院の運営情報を開示して、職員間のコミュニケーションを図り、改革志向の強い病院とします。

ウ 患者さまの権利

1. 病気や診療のことで疑問があれば、どのようなことでも質問する権利があります。また所定の手続きにより、診療情報の開示を求めるすることができます。
 2. 検査や治療を受けるときは、わかりやすい言葉で丁寧に危険性を含めた説明を受け、自らの意思で選択・決定する権利があります。
 3. 診療上必要とされた個人情報やプライバシーが守られる権利があります。
 4. 医療事故防止に配慮した環境で、安心して診療を受ける権利があります。
 5. すべての患者さまが等しく上記の権利を行使するためには、病院の規則を守り他の人々や職員に迷惑をかけない責務があります。

工 施設認定等（一部抜粋）

- ・地域医療支援病院
 - ・地域がん診療連携拠点病院（厚生労働省指定）
 - ・臨床研修指定病院
 - ・歯科医師臨床研修指定施設
 - ・兵庫県救急告示病院
 - ・DPC対象病院 他

才 診療実績（2016年度）

・届出入院基本料	一般病棟入院基本料（7対1）
	ハイケアユニット入院医療管理料
	小児入院医療管理料 5
・入院延患者数	97,561人
・入院1日平均患者数	243.3人
・平均在院日数	10.2日
・病床利用率	67.4%
・外来延患者数	192,771人
・外来1日平均患者数	793.3人
・紹介率	60.6%
・逆紹介率	90.2%
・救急搬送件数	2,216件
・手術件数（手術室）	3,493件

力 職員数（2016年度）

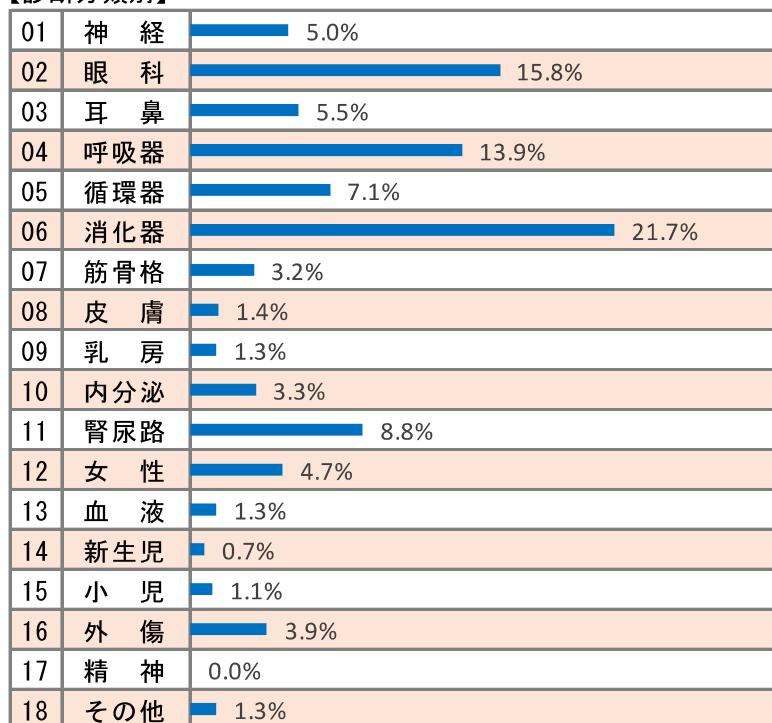
616.5人（育休等除く）

【内訳】 診療職員（医師、歯科医師）：103.9人
医療技術職員 : 105.7人
看護職員 : 338.5人
事務職員 : 49.9人
労務職員、労務技術職員 : 18.5人

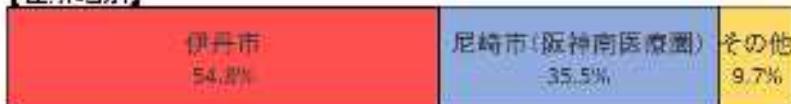
キ 当院の特徴

- ・地域の中核病院として、主に急性期医療を担っている。
- ・DPC患者＜病院内＞構成比（2017年度）

【診断分類別】

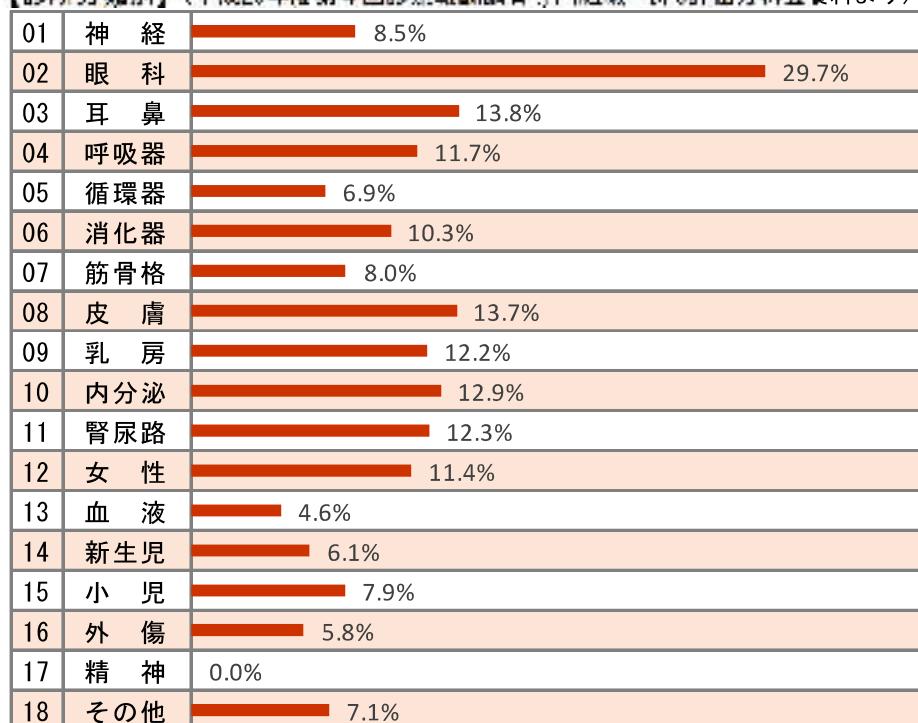


【住所地別】



・ D P C 患者＜園域内＞構成比 (2016年度)

【診科分類別】(平成29年度第4回診療報酬請求専門会議・DPC評議会資料より)



- ・ 地域医療支援病院として、紹介・逆紹介の推進、積極的な救急受け入れ、高額医療機器の使用提供、開放型病床の確保等、一次医療を担う「かかりつけ医」を支援している。また、地域の医療従事者を対象とした症例研究会や研修会等を定期的に開催し、他の医療機関や保健福祉機関に出向いて「出前研修」を実施する等、地域の中核病院としての役割を果たしている。
- ・ 地域がん診療連携拠点病院として、肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がんを中心に、食道がん、胆道癌、膵癌、前立腺がん、頭頸部がん等専門的ながん医療においても高度先進医療を提供できるよう、機器、技術等すべての面での診療体制を整備している。また、院内外を問わず、がん医療に携わる医師、薬剤師、看護師その他多くの医療関係者を対象とした研修等（がん関連勉強会、緩和ケア研修会等）を実施するとともに、院内の「相談支援センター」では、国立がん研究センターで研修した看護師等を含む多職種により、がん患者さまやそのご家族（患者会を含む）、地域住民や地域の医療機関等に対する種々のがん関連の相談や必要な情報収集を行っている。地域住民を対象としたがん啓蒙活動としては、市民公開講座や学校での講演活動を定期的に開催している。
- ・ 公立学校の教職員のための職域病院として、主に近畿ブロック（6府県）の組合員を対象とした「人間ドック事業」と「メンタルヘルス事業」（復職の支援や再休職防止等の職場復帰関連事業、メンタルヘルス相談、メンタルヘルスに関するセミナーや講演等）を担っている。

ク 当院の担う政策医療（5疾患・5事業及び在宅医療に関する事項）

・がん

平成19年1月から、厚生労働省指定の地域がん診療連携拠点病院として、肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がんを中心に、食道がん、胆道癌、膀胱癌、前立腺がん、頭頸部がん等専門的ながん医療においても高度先進医療を提供できるよう、機器、技術等すべての面での診療体制を整えている。また、院内外を問わず、がん医療に携わる医師、薬剤師、看護師その他多くの医療関係者を対象とした研修等（がん関連勉強会、緩和ケア研修会等）を実施するとともに、院内の「相談支援センター」では、国立がん研究センターで研修した看護師等を含む多職種により、がん患者さまやそのご家族（患者会を含む）、地域住民や地域の医療機関等に対する種々のがん関連の相談対応や必要な情報収集を行っている。地域住民を対象としたがん啓蒙活動としては、市民公開講座や学校での講演活動を定期的に開催している。

・脳卒中

平成25年4月に脳神経外科を開設以来、脳卒中の急性期医療機関として24時間入院・治療が可能な体制を整備している。脳神経外科医と神経内科医の連携のもとブレインコール（救急隊や地域医療機関からの直通コール）を開設し、緊急手術を含めた受入れを可能としている。また、地域連携パスを導入し医療連携体制に基づく地域完結型医療を実践している。

・急性心筋梗塞

日本心血管インターベンション治療学会の認定医・専門医が在籍し、専門的検査・治療を積極的に行っている（2016年度実績／心臓カテーテル検査・治療：412症例、うちPCI：112症例）。コメディカルスタッフとのチーム医療によりハートコール（救急隊や地域医療機関からの直通コール）を開設し、緊急カテーテル検査・治療の受入れを日曜日以外24時間可能としている。また、多職種によるチーム医療としての心臓リハビリテーションを実施しており、患者さまの早期社会復帰を目指し、冠危険因子の是正と二次予防に努めている。

・糖尿病

糖尿病の専門治療医療機関として、食事療法、運動療法に加え、内服療法、インスリン療法等総括的な治療を専門医が中心となった多職種によるチーム医療として実践している。教育入院や妊婦糖尿病患者さまにも対応し、急性増悪時治療（急性合併症患者さまの24時間受入れ）、慢性合併症治療（眼・腎臓・神経）、その他専門的検査・治療すべての体制を整備している。また、患者さまやそのご家族と情報交換や親睦を図り、より良い糖尿病治療を進めることを目的として設立された糖尿病患者会「近桃会」には16年の歴史がある。ハイキングや勉強会、栄養教室等の多彩な活動を通して、患者さま同士や職員との交流を図っている。

・精神疾患

常勤専門医を配置し、地域の中核病院として精神疾患の治療等を担っている。職域の「メンタルヘルス事業」を手掛けていることもあり、要員の都合上、新規患者さまの受入れは職域（公立学校共済組合員）に制限しているが、地域医療機関との役割分担を行い、院内では各診療科にて身体疾患で入院中の患者さまに併発した精神症状の治療（コンサルテーション・リエゾン精神医療）を中心に取り組んでいる。また、地域がん診療連携拠点病院として、がんに罹患された患者さまの「気持ちの問題」について診療を行っており、医師の他、臨床心理士も緩和ケアチームに参加し、多職種で協同してサポートを行っている。

・救急医療

兵庫県の救急告示病院（二次救急）として、入院や手術の必要な患者さまを積極的に受入れている。「伊丹市消防局・尼崎市消防局との合同調整会議」を定期的に開催し、日々の救急搬送における問題点等をお互い確認する等、患者さまの円滑な救急救命のため意見交換を行っている。また、救急救命士の生涯研修や気管挿管実習を毎年受入れることで、地域の救急行政への役割を果たしている。

※2016年度実績

【全救急患者数】6,873件 (内訳) 平日時間内 : 3,253件
休日・時間外 : 3,620件

【救急搬送件数】2,216件 (内訳) 平日時間内 : 1,025件
休日・時間外 : 1,191件
(内訳) 伊丹市 : 1,436件
尼崎市 : 658件
その他 : 122件

【救急搬送後即入院割合】54.3%

・災害医療

近隣での災害発生時には、阪神北圏域災害救急医療マニュアルに従い、兵庫県の救急告示病院として、兵庫県広域災害・救急医療情報システムのもと、災害拠点病院とともに適切な医療を提供する体制を整備している。院内では業務継続計画（B C P）を定め、トリアージを含めた大規模災害訓練を実施している。なお、病院建替え後は、施設を耐震・免震構造とし、水や電気等のライフラインの維持機能を備えるとともに、被災地内の多数の傷病者の受け入れと搬出を想定した外来スペースを確保する等、施設構造やレイアウトに配慮している。

・べき地医療

行っていない。

・周産期医療

母と子の健康を守るため、産婦人科医、小児科医、その他の医療スタッフが連携し妊娠、出産から新生児期に至るまで総合的な医療を提供している。N I C Uは未整備であるが、関連大学病院等のバックアップ体制を確立しており、患者さまには安心・安全な療養環境を担保できている。また、産婦人科医は毎日24時間体制で当直しているため、切迫流早産、合併症妊娠、緊急手術等に対応可能であり、二次救急輪番病院としても地域の産婦人科救急を担っている。

・小児医療

一般小児科医療の提供の他、小児内分泌代謝専門医による小児内分泌疾患外来（成長ホルモン分泌不全性低身長、クレチニン症、バセドウ病、橋本病、副甲状腺・副腎疾患、思春期の異常、肥満、糖尿病、夜尿症等の診断・治療・指導）と、小児感染対策医による予防接種外来（B C G・三種混合・M Rワクチン、おたふく・水ぼうそう・日本脳炎・二種混合・B型肝炎ワクチン、ヒブ・肺炎球菌、四種混合、ポリオ、ロタウイルス、インフルエンザと子宮頸がんワクチン）の専門外来を持ち、地域医療に貢献している。また、二次救急輪番病院としても地域の小児救急を担っている。

・在宅医療

入院患者のうち退院支援が必要な患者さまにはM S W等が早期に介入し、退院後も一貫した医療等が受けられるよう、在宅医、地域包括支援センター、ケアマネージャー、訪問看護師、行政機関等と連携を図りながら、在宅医療を支援している。また、大腿部

頸部骨折や脳卒中の地域連携バス、がん地域連携バスにより、転院を挟んでも在宅療養に至るまで患者さまに切れ目のない治療・ケア・リハビリ等が効率的・効果的に提供されるよう取り組んでいる。

ヶ 他機関との連携（2016年度実績）

・登録医数	331件
・開放型病床利用機関数	719機関
・開放型病床	5床（利用率21.7%）
・地域医療従事者への研修回数 及び参加者数	32回 613人
・転帰別件数（死亡除く）	在宅（居住系介護施設等 58件含む） 7,997件
	老健（在宅強化型施設等） 9件
	（上記以外） 9件
	転院（療養型—在宅復帰機能強化型） 64件
	（療養型（上記以外）） 51件
	（回復期リハ） 119件
	（地域包括ケア） 32件
	（その他病院等） 219件

④ 自施設の課題

圏域内において地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院の地位を確固たるものとし、地域包括ケアシステムにおける急性期病院としての使命を果たすべく、病床の確保による患者受入れと在宅への円滑な退院を推進し、地域医療完結型の医療を構築するため、以下の課題に取り組んでいる。

- ・医師、看護師等医療スタッフの更なる確保
- ・放射線治療機器の機能強化
- ・救急患者の受入れ増のための院内体制の強化
- ・医療の質の向上と患者支援体制の充実を目的とした入退院支援センターの整備
- ・施設の老朽化・狭隘化対策（移転新築）

【2. 今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割

- ・地域内の医療機関との連携を強化し、地域完結型医療を実現する。
- ・がん診療機能を更に発展させ、地域がん診療連携拠点病院として地域内の基幹的役割を果たす。
- ・地域の中核となる急性期病院として、特に「救急医療」「がん」「心疾患」「脳疾患」「手術」に係る機能を充実させる。

今後地域において担うべき役割											その他
がん	脳卒中	新血管疾患	糖尿病	精神疾患	救急	災害	べき地	周産期	小児	在宅	その他
○	○	○	○		○			○	○	○	

② 今後持つべき病床機能

- ・急性期病床に一部高度急性期病床を加えた体制を維持する。

③ その他見直すべき点

- ・移転新築の計画をスタートさせる。

【3. 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	4	→	4
急性期	441 (休床47含む)		441
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	445 (休床47含む)		445

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○合意形成に向けた協議	○自施設の今後の病床のあり方を決定（本プラン策定）	2年間程度で集中的な検討を促進
2018年度	○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討	○移転新築計画をスタート ○地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る	第7期 介護保険 事業計画
2019～2020 年度	○具体的な病床整備計画を策定	○基本計画 ○基本設計	第7次 医療計画
2021～2023 年度	○当該補助金・交付金申請	○実施設計 ○2021年度中に着工	第8期 介護保険 事業計画

② 診療科の見直しについて

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定期点)		将来 (2025年度)
維持	見直しなし	→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ 他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：95%
- ・ 手術室稼働率：70%
- ・ 紹介率：65%
- ・ 逆紹介率：90%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率：55%
 - ・ 医業収益に占める人材育成にかける費用（職員研修費等）の割合：0.5%
- その他：

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】 (自由記載)